子規 Shiki　漱石 Soseki
生誕150年 since 2017
―松山から世界へ そして未来へ―

子規・漱石生誕150年

明治28（1895）年８月、松山に赴任していた夏目漱石の下宿「愚陀佛庵（ぐだぶつあん）」に、帰省した正岡子規が身を寄せ、2人の共同生活が始まりました。2人のもとには、子規の友人・柳原極堂（やなぎはらきょくどう）をはじめとする松山の俳句結社・松風会（しょうふうかい）の会員たちが集います。子規は松山で新しい俳句についての考えをまとめ、また漱石と極堂は子規とともに俳句に励み、子規の俳句革新運動を支えました。愚陀佛庵での日々がその後の日本近代文学に大きな影響を与えました。平成29年は、近代俳句の先駆者となった子規、そして松山で子規を見守り、支えた親友の漱石と極堂が生誕150年を迎える記念の年です。

子規と漱石が松山で52日間同居した「愚陀佛庵」

正岡　子規（1867～1902）

松山出身の文学者。本名は常規（つねのり）。脊椎カリエスという難病と闘いながらも、俳句・短歌・文章などさまざまなジャンルの文学の革新運動に取り組み、日本の近代文学に大きな足跡を残す。また、夏目漱石・森鷗外といった多くの文学者と交流をもち、のちの文学史にも大きな影響を与える。松山を詠んだ代表作に「春や昔十五万石の城下哉」がある。

子規・漱石が照葉狂言を観覧した大街道の「新栄座」

夏目　漱石（1867～1916）

東京出身。近代日本を代表する文豪。子規とは学生時代からの親友。明治28（1895）年に教師として松山へ赴任し、約1年間英語を教える。愚陀佛庵で子規と52日間同居し、本格的に俳句を学ぶ。「吾輩は猫である」をはじめ多くの小説作品をのこしており、松山と縁が深い代表作として小説『坊っちゃん』がある。『坊っちゃん』は現在も松山の多くの人に親しまれ、松山のシンボルとなっている。

平成13（2001）年に復活した「坊っちゃん列車」

子規・漱石生誕150年記念事業

主な取り組み

子規と漱石が松山で俳句作りに熱中したこと、漱石が子規との別れを惜しみながらロンドンへ留学し、世界を体験したこと、現代に通ずる文学をのこしたことなど、等身大の2人にスポットをあてたエピソードを効果的に盛り込み、松山ならではのストーリー性を持った事業を計画しています。

①第15回坊っちゃん文学賞

第14回坊っちゃん文学賞

漱石ゆかりの松山から新しい青春文学の創造を目指して創設した文学賞。これまでの小説部門に加え、生誕150年を記念して「ショートショート部門」を新設。

【締め切り】 6月30日(金)（消印有効）

②子規記念博物館常設展の一部リニューアル

子規記念博物館の常設展に新たに映像機器を導入するなど、子どもから大人まで幅広い年齢層が楽しめるよう、一部をリニューアル。

【時期】 4月を予定

③子規記念博物館 子規・漱石・極堂生誕150年記念特別企画展

子規・漱石の友情や松山での日々、極堂をはじめとする友人たちとの交流などについて、直筆の資料などを紹介しながら3人を顕彰。

【時期】 4月下旬～5月下旬を予定

④子規・漱石生誕150年記念第20回俳句甲子園

高校生が5人1チームで俳句の作句力と鑑賞力を競う全国大会。

【時期】 地方大会＝6月中旬▼全国大会＝8月下旬

【会場】 地方大会＝全国各地の会場▼全国大会＝大街道商店街特設会場・総合コミュニティセンター（湊町七丁目）

毎年熱戦が繰り広げられる

⑤子規・漱石・極堂生誕150年記念式典（予定）

子規・漱石・極堂に詳しい著名人を招いての講演会などのイベントを計画。

【時期】 10月中旬を予定

【会場】 子規記念博物館（道後公園）

⑥『International Photo-Haiku Festival』（仮称）

年間を通じて俳句と市内観光が体験できるまち歩き商品の提供や写真俳句コンテストを開催予定。

子規の功績を後世に伝える

柳原　極堂（1867～1957）

松山出身の俳人、新聞記者。子規とは少年時代からの親友。子規から俳句の指導を受け、子規のために俳句雑誌「ほとゝぎす」を松山で創刊するなど、子規の俳句活動を支える。子規が亡くなった後は、松山で子規の研究と顕彰に力を尽くし、現在も続く「松山子規会」を発足。子規の功績は今日広く知られているが、それは極堂のひたむきな顕彰活動があってこそのものであり、それらの功績により昭和32（1957）年、本市初の名誉市民となる。

※子規記念博物館では子規・漱石に極堂もあわせた3人の顕彰事業を行います

問①④＝文化・ことば課☎948-6952・FAX934-1287、②③⑤＝子規記念博物館☎931-5566・FAX934-3416、⑥＝観光・国際交流課☎948-6558・FAX943-9001